



～三峯の紅葉～

秋のはじめ

十月半ば頃より、ようやく紅葉がはじま
まじな。また今年も祖谷の山々が錦絵のよ
うに輝く紅葉が目に沁み入ります。
この、この自然美。また来年見られる保障
はありません。

名古屋では、「生きるとの会議」が世界中から
集い話しあっているが、いつもながら経済優先が
対象は先送りの感が強いようです。
現状は、日々変化しているのに人間とはいか
にエゴイストなのでしょうか。

祖谷で、動物に出会ふのは、毎日あります。
せん。小エゴイスト、毎日のように畑や道路の
周辺を飛びかえしています。鹿も熊を求
めて鳴き、毎日見ることが出来ます。

今日も

「きれい」だけど「いきどろ」

10.11. No.162

発行所 日田市 0883-88-5292
責任者 日田市 0883-88-5292
発行所 日田市 0883-88-5292

人に撞いて、車が近づくとも
すぐに逃げたくなくつてます。
十一年前前にと、奈良の春
日山で夜にセニベイをやら
びくこの話にみる程、観光の
目玉で、今では、すぐそばに鹿
が出没、農業の被害が多くなっ
ている。...という言い方は、すべし
私という人間サイトからの考えを
動物からすれば、きょう生きる為
喰うにだけです。
うまい食物があれば、どちらを食
べるかは、生き物であれば当然、
たとえ、人間が苦勞して耕作して
いても、その関係なしの連発
まして、山の鹿、紅葉がきれい、
ドラゴンツツとごうがエゴイ
ろうが区別なく喰うてます。
そんな木々が少し早く紅葉なりは



「生きる為だけに喰う人ぞと」
犯人が被害者
ニホニホモツカ



は、「ワライキしいなあ」と喜んで「そんな
の関係ねえ」。この、皮をむかれた人は、枯れ
ていくことになり、来年は、紅葉がきれい、と
人々に「ワライキしいなあ」と喜ばれ、
はいごしよう。
祖谷の窟は、この大自然。本当にどう
するの。...カ、猪、猿を犯人に仕立てあげ
て解決しませんよ。もし人間に知恵が
あるなら、自然の経済を優先する、ことな
地球の生き物たちと共に生きる道をみつ
けることが可能でしょうか。
それが出来なければ、地球とサスに人間も生
きていけないのではありませんか。
自然を守っているのは、決って人間ではない
は、おどろ。今より悪くなっている事に手をか
して、この間は、人間は、人間ですが、カヤ
猪の動物のせいには、実は、あかりや、
犯人を作りあげるのは、検査や権力者だけ
なく、これこそ人間の知恵の一つ、ごよう。

